

授業科目名 (英訳)	グローバルコミュニケーションⅡ Global Communication II				担当者所属 職名・氏名	総合生存学館 教授・河合 江理子					
配当学年	1・2・3 回生	単位数	2	開講年度 開講期	H27 通年	曜時限	水/4	授業形態	演習	使用言語	英語
〔授業の概要・目的〕											
<p>社会のあらゆる場面でグローバル化が進展しており、我が国のプレゼンスを高める意味でもグローバル人材の育成が求められている。こうした状況にあって、国際機関等でグローバルに活躍したいと希望している学生は多いが、英語力の向上を以ってそれに臨もうとすることが多い。ただし、英語力の向上だけではグローバルな展開をすることは困難であり、こうしたことに的確に対応するには、コミュニケーション能力をはじめとする様々な能力を備え、今や国際共通語となっている英語をベースとして、自文化と異文化の理解並びにその理解に裏付けられた情報発信ができる能力を培う必要がある。この授業では、それらを体得させるため、その主要な柱となる英語によるコミュニケーションスキルとリーダーシップスキルの向上を目指し、演習的技法を採り入れる。具体的には、学生の学位論文研究の進捗状況を一人ひとりプレゼンテーションさせ、これを題材として議論させることによって、speaking, listening 能力（プレゼンススキル、ディベート）を磨き、レポート作成演習を通じて英語文章作成能力を強化させる。英語で世界経済や金融の記事を中心に読み、これらの問題について討論させることにより、読解力を積み上げさせるとともに、国際ビジネスの展開に必要な世界情勢に対する知識を身につけさせる。また、インターネット教材も必要に応じて適宜活用し、高度な英語読解力、聞き取り能力を身につけさせる。さらに、リーダーシップスキルに関しては、グローバル企業等を中心に活躍しているリーダーをゲストスピーカーとして招き、学生間のグループワークを採り入れ、その業務知識や経験に裏付けられたチームワークやチームを導く指導力を学ぶとともに、講師と学生との議論を通じて生きたリーダーシップスキルを体得させる。なお、TOEFL-IBT スコアが 80 点以上（相当）の学生を対象とし、授業は英語のみにより行う。</p>											
〔到達目標〕											
<p>海外で勉強、仕事をするに必要な英語力、コミュニケーション力を磨く。世界情勢についての知識を増やし、現在の社会問題についてのディベート力を養う。</p>											
〔授業計画と内容〕											
<p>プレゼンテーション（第1回～第12回） プレゼンテーションのスキルをより一層向上させるために、視覚的に読みやすくかつ理解しやすい資料の作り方、伝えたいことをしっかりわかってもらえる発表の仕方(声、ジェスチャー、ボディランゲージ)、効率的なコミュニケーションの方法論を学び、個人によるプレゼンテーションとグループによるプレゼンテーションについて演習形式で学びを深める。また、効果的な質疑応答の方法論も演習に組み込む。具体的には、学生が個々の専門分野の学位論文研究の進捗状況について英語でプレゼンテーションを行い、グループで質疑応答ならびに議論を交わす。</p> <p>異文化コミュニケーション（第13回～第20回） 英語を母国語としない人々が、英語ならびにグローバルリーダーシップを駆使し海外で働くことで遭遇する異文化コミュニケーションの問題について、英語による種々のケーススタディを検討し、対処法をグループで論議し、グループごとに英語で発表を行い、レポートをまとめ提出する。さらに、国際社会で活躍しているグローバル企業のビジネスマン等を招き、国際的なキャリアデザインに関して必要な知識や経験について英語による講義を行い、講義内容を英語でまとめたレポートを提出させる。海外のビジネススクールで開発されたマーケティングのシミュレーションゲームをグループワークで行い、グループ発表の後、個々のテーマごとに議論する。この演習を通して、グループダイナミクスやリーダーシップスキルを習得する。</p> <p>政治、経済、金融（第21回～第30回） 政治、経済、金融の直面する課題について、Financial Times や Economist の記事を読み込み、トピックスごとにグループで討議を行う。これにより、大量の英語の情報の中から必要な情報を取捨選択し、内容を理解、整理した上で議論ができる発信能力を身につける。また英語の教材(Khan Academy)を選択し、聞き取り能力の向上も目指す。講師を交えた学生間の議論をはじめ、学生の発表や質疑応答、経済や金融用語、投資理論の解説が中心となる。</p>											

〔履修要件〕

TOEFL-iBT 試験の得点数が 80 点以上（相当）の学生を対象とする。

〔成績評価の方法・観点及び達成度〕

- | | |
|-----------------------------------|------|
| ・ 授業への貢献度（プレゼンテーション、出席、質疑応答への準備度） | －50% |
| ・ 英語レポート | －30% |
| ・ 異文化コミュニケーション 発表 | －10% |
| ・ シミュレーションゲーム 発表 | －10% |

〔教科書〕

使用しない。随時参考文献等のプリントをメールで配布する。

〔参考書等〕

河合江理子『自分の小さな「鳥かご」から飛び立ちなさい』（ダイヤモンド社、2013年）

〔授業外学習（予習・復習）等〕

履修者は教室で行う作業のための予習・準備を必ずして授業に臨むこと。授業時間と同様かそれ以上の準備時間が必要。グループワークも含まれる。

〔その他（オフィスアワー等）〕